

経営比較分析表（平成29年度決算）

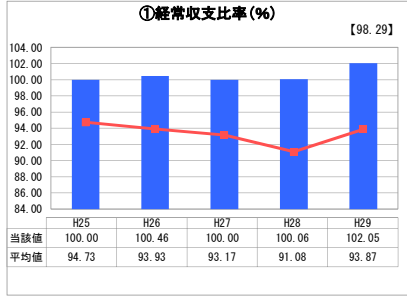
兵庫県 豊岡市

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	11.60	0.25	100.00	3,348

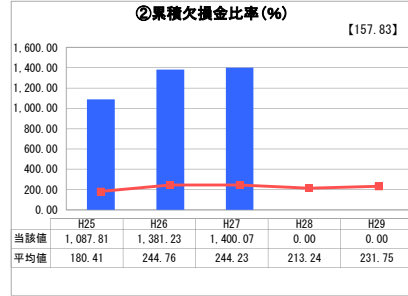
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
83,174	697.55	119.24
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
206	0.18	1,144.44

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

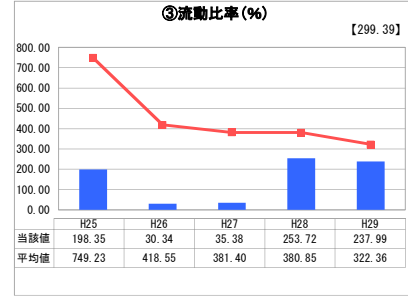
1. 経営の健全性・効率性



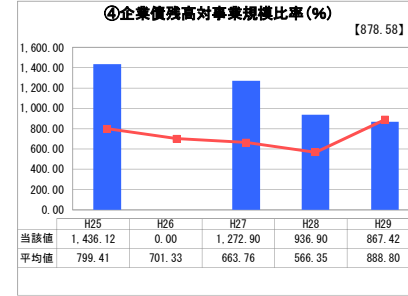
「経常損益」



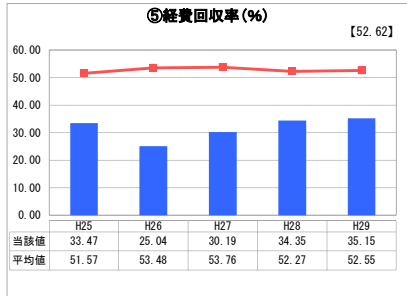
「累積欠損」



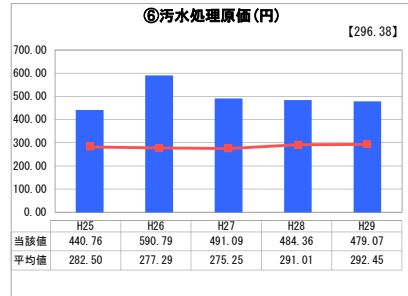
「支払能力」



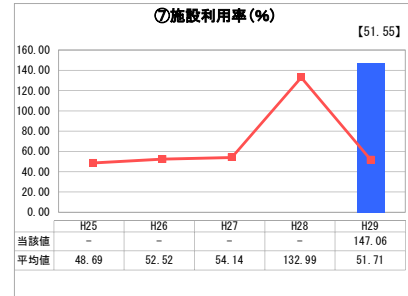
「債務残高」



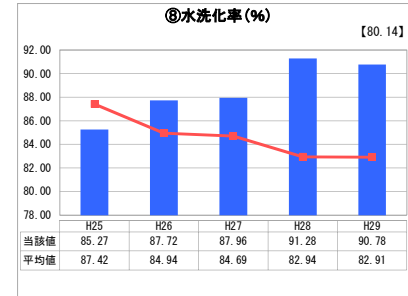
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

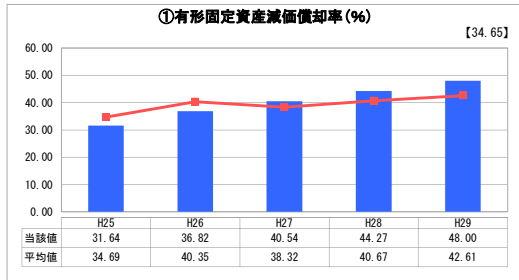


「施設の効率性」

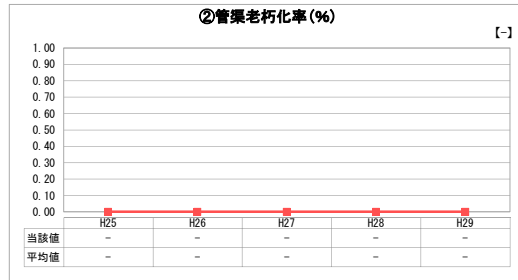


「使用料対象の捕捉」

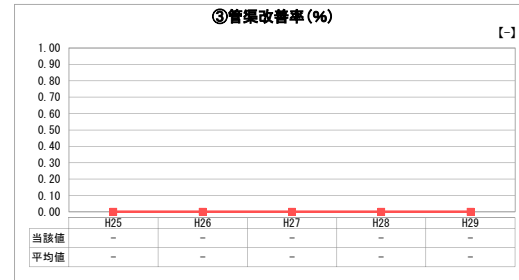
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は高水準を維持できている。⑤経費回収率が低いのは、収益が一般会計からの繰入金に依存していること、汚水処理費が高いことが理由である。汚水処理費については、⑥汚水処理原価についても同じことが言える。

2. 老朽化の状況について

類似団体よりも償却率が高く、施設の老朽化が着実に進んでいる。今後は、将来の運営状況を考慮しつつ、合理的な投資をしていかなければならない。

全体総括

使用料収入だけでは経費を賄うことができておらず、依然として一般会計からの繰入金に依存しており、独立採算による経営ができていない。また、汚水処理に係る費用が高いまま推移しているため、経営努力に動かし、引き続き営業費用の削減に取り組む必要がある。施設の長寿命化を合理的、計画的に進めていき、効率的な業務を行うことが必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。